

## Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 52015733  
PUBLICATION DATE : 05-02-77

APPLICATION DATE : 29-07-75  
APPLICATION NUMBER : 50092833

APPLICANT : MATSUSHIMA SHIGEO;

INVENTOR : MATSUSHIMA SHIGEO;

INT.CL. : A63B 53/04

TITLE : GOLF CLUB

ABSTRACT : PURPOSE: To provide golf club whose batting side can be directed accurately to hole by attaching a mirror on the heat of patten.

COPYRIGHT: (C)1977,JPO&Japio

EV 404053472 US

Atty. Docket No. 8572-000012US  
App. Ser. No. 10/763,925  
Applicant: Green  
Reference 53 of 57

BEST AVAILABLE COPY



(4000円)

特

許

願

昭和50年7月29日

特許庁長官 廣 藤 英 雄 殿

## 1. 発明の名称

ゴルフクラブ

## 2. 発明者

住 所

特許出願人に向じ

氏 名

## 3. 特許出願人

郵便番号 571 大阪府門真市末広町257の1

住 所

氏 名

松 島 成 夫

## 4. 代理人

郵便番号 530

住 所 大阪市北区堂島1-2丁目39番地(毎日産業ビル内)

氏 名 (6176) 弁理士 石 田 長 七

電話大阪 (06) 344-4343 (代表)

## 5. 添付書類の目録

- |             |     |
|-------------|-----|
| (1) 明 細 書   | 1 通 |
| (2) 図 面     | 1 通 |
| (3) 委 任 状   | 1 通 |
| (4) 願書副本    | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |

明 細 書

## 1. 発明の名称

ゴルフクラブ

## 2. 特許請求の範囲

バターのヘッドに鏡体を取付け、ヘッドの上背方に突出せる鏡体の鏡面をヘッドの打球面に対して傾斜させて成ることを特徴とするゴルフクラブ。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、バター(1)のヘッド(2)に鏡体(4)を取付け、ヘッド(2)の上背方に突出せる鏡体(4)の鏡面(5)をヘッド(2)の打球面(3)に対して傾斜させて成ることを特徴とするゴルフクラブに係るものであつて、その目的とするところは打球面を正確にボールの方に向けることのできるゴルフクラブを提供するにある。

本発明を実施例により詳述する。図中(1)はバターであつて、バター(1)のヘッド(2)に鏡体(4)が取付けてあり、鏡体(4)の鏡面(5)をヘッド(2)より上背方

① 日本国特許庁

## 公開特許公報

①特開昭 52-15733

④公開日 昭52.(1977) 2. 5

②特願昭 50-92833

②出願日 昭50.(1975) 7.29

審査請求 有 (全3頁)

庁内整理番号

6641 25

⑤日本分類

/20 G522.1

⑤ Int.Cl<sup>2</sup>

A63B 53/04

に突出させて打球面(3)に対して傾斜させてある。鏡体(4)はヘッド(2)に固着してもよく、あるいは着脱自在に取付けてもよいものであり、いずれの場合も鏡体(4)の鏡面(5)がヘッド(2)の上部より上背方に向けて傾斜するようにして取付けてある。ここで鏡体(4)を着脱自在に取付けるに当つては、例えば第3図の如くヘッド(2)に嵌め込み凹所(6)を設け、鏡体(4)の下部に嵌め込み用凸部(7)を設けて、嵌め込み用凹所(6)に嵌め込み用凸部(7)を着脱自在に嵌め込んで鏡体(4)をヘッド(2)に取付けるのである。この場合鏡体(4)の嵌め込み用凸部(7)が弾性を有しているといつそう取付けが確実となる。また鏡体(4)を着脱自在に取付けるに当つては上記実施例のみに限定されず、他の方法によつてもよいのはもちろんである。しかして使用に当つては、アドレスの状態において、鏡体(4)の鏡面(5)にボールを立てたボール(8)が映るようヘッド(2)の位置を動かして、鏡面(5)にボール(8)が映つた時点でヘッド(2)の移動を停止してアドレスを完了する。このようにすることによりヘッド(2)の打球面(3)が正確に保

ボール(8)の方向を向くこととなる。この状態でゴルフボールを打つことにより、打球面(2)にてゴルフボールをホール方向にころがすことができるのである。なお鏡面(5)の中央に上下方向に目印線(9)をあらかじめ施しておき、鏡面(5)に映つたボール(8)の像を目印線(9)に合致させるようにするといつて正確に打球面(2)をボール(8)方向に向けることができるものである。この場合鏡面(5)の上下幅(10)の中央に第5図の如くそれぞれ目印線(9)を施しておいてもよい。また鏡面(5)としては平鏡面(5a)のみでなく、例えば凸鏡面(5b)、凹鏡面(5c)でもよい。凸鏡面(5b)を用いたものにあってはボール(8)だけでなくボール(8)の周囲が広い範囲に見えて見えるものであり、ボール(8)を中心とした全体の状況が把握できることとなる。また凸鏡面(5b)を用いると凸鏡面(5b)の突出高さを低くしても充分ボール(8)を見ることができるものである。一方鏡面(5)として凹鏡面(5c)を用いたものにあっては、やや凹面として焦点距離の長い凹鏡面(5c)とすることにより、ボール(8)が近くに見えるものである。更に

凸鏡面(5b)、凹鏡面(5c)にも合致線を施しておいてもよいものである。

本発明は、叙述の如くバターのヘッドに鏡体を取付けてあるので、アドレスに当つて鏡体の鏡面にボールを映して見ることにより、正確に打球面をホールに立てたボールの方向に向けることができるものであり、特に本発明ゴルフクラブはバターの練習において有効であつて、ボールに対して打球面を正確に向けるための練習が簡単にできるという利点があり、しかも鏡体の鏡面がヘッドの打球面に対して傾斜させてあるので、打球面をほぼ垂直にした状態でボールを鏡面に映して見ることができ、自然なアドレスで打球面を正確にボールの方向に向けることができるものである。

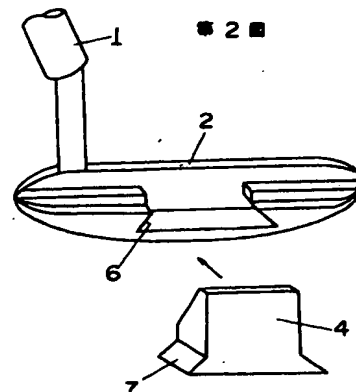
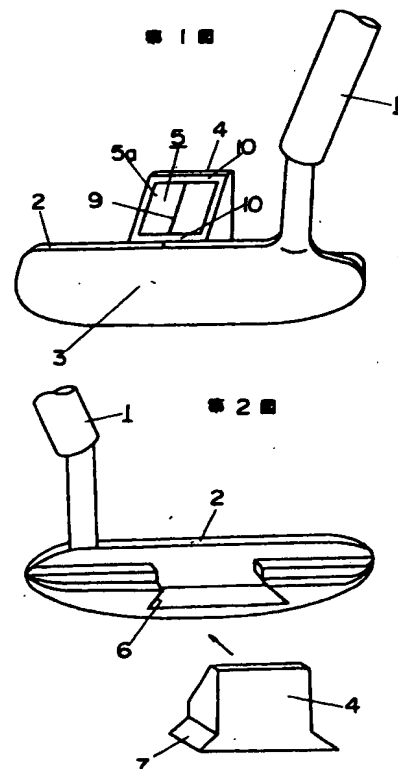
#### 4 図面の簡単な説明

第1図は本発明ゴルフクラブの一部切欠一実施例の斜断面図、第2図は同上の一部切欠背部分解斜断面図、第3図は同上の使用状態を示す説明図、

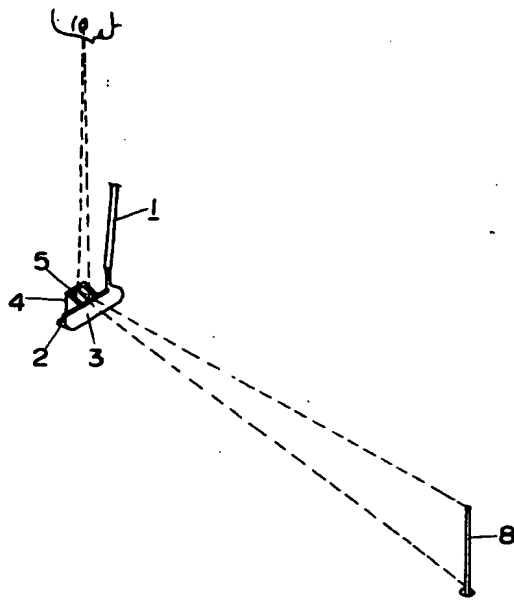
第4図(a)(b)はそれぞれ同上の他の実施例の要部断、第5図は同上の更に他の実施例の斜断面図であつて、(1)はバター、(2)はヘッド、(3)は打

球面、(4)は鏡体、(5)は鏡面である。

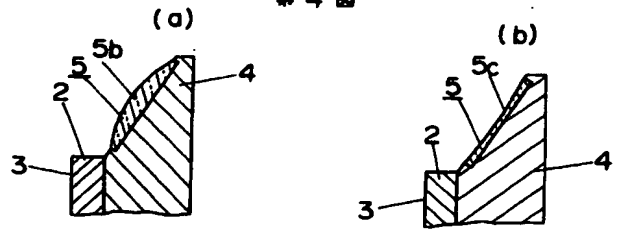
代理人 弁理士 石 田 長 七



第 3 圖



第 4 圖



第 5 圖

